

「ぼたん鍋」の名称の由来について

前号（vol57）でぼたん鍋の由来について触れましたが、正しくは下記の通りです。

「ぼたん鍋」という言葉は、旧篠山町商工会の前身である篠山実業協会（明治45年に設立）が昭和6年に「篠山小唄」の歌詞選定で選んだ次の一節に、初めて登場します。

「御嶽おろしに舞う雪の 窓の小篠に積もる夜は
酔うて もたれて 思われて
沸る（たぎる）情のぼたん鍋」

作詞者の斎藤子郊氏は「七五調の歌詞に従来から呼ばれていた『いの鍋』は合わず何かいい言葉がないかと考えた末、江戸時代からの絵図で有名な『唐獅子と牡丹』から思いついた」と述べられている。

「唐獅子と牡丹」とは、唐獅子に牡丹を配置した図柄のことで、昔から絵画や陶器などによく使われている図柄です。転じて、取り合わせの良いものの例えで使われています。

なぜ「唐獅子と牡丹」から「ぼたん鍋」になるかと言うと、「しし（猪）鍋」の「しし」と「(唐)獅子」の「しし」を掛けて、「ししとぼたん」となるからです。

そして、この歌詞に歌われた「ぼたん鍋」に合わせて、料理旅館近又の先々代主人が、猪肉を牡丹の花のように並べたのが始まりです。このぼたんの花のように見える盛り付けを見て、「ぼたん鍋」の由来と多くの人が思うようになりましたが、真実は篠山小唄の歌詞の一節が由来なのです。

その後丹波篠山の多くの料理店や料理旅館が協力して、「ぼたん鍋」を広めていき、現在の丹波篠山のぼたん鍋が確立されていきました。